

生き方探究教育 校内研修用資料

この冊子について

京都市では、平成 22 年度から、全ての小学校に生き方探究教育主任が置かれるようになりました。各校における「キャリア教育の推進の担い手」として、生き方探究教育主任の役割が期待されています。

当総合教育センター研究課が実施した平成 23 年の全市立小学校を対象とした調査では、「生き方探究教育に関する校内研修」の実施を予定している小学校は、全体の 48%と半数を下回っています。その原因として、主任のみなさんが、どのように校内研修を進め、何を伝達し、どのような実践をしていけばよいのかがわからないという、率直な思いがあるのではないのでしょうか。

そのような課題を受け「生き方探究教育校内研修用資料」を作成いたしました。

初めて生き方探究教育主任となった先生でも、この冊子を参照しながら校内研修を計画・実施することで、この教育の要点や概要をわかりやすく説明し、実践方法を具体的に提示できるように作成しています。また、よりわかりやすい理論研修を行うために、プレゼンテーションソフトのデータも作成しました。本冊子にある「校内研修のシナリオ」と合わせて活用することで、より内容の充実した研修が可能になると考えます。

本冊子が広く活用され、各校において生き方探究教育の取組が更に充実していくことを願っています。

目次

この冊子について

生き方探究教育の進め方(例) 1

理論研修Ⅰ 生き方探究教育の目的と意義 2

(1) 理論研修Ⅰの実施に向けて

- ★年間を通して必要となる資料の確認
- ★学校教育目標を基にした全体計画の作成
- ★生き方探究教育推進部会(仮称)の設置
- ★キャリア発達課題の確認

(2) 理論研修Ⅰのシナリオ

- ★理論研修Ⅰの実施
- ★シナリオ
- ★年間指導計画の立案(様式①, ②)

理論研修Ⅱ 生き方探究教育の実践に向けて 12

(1) 理論研修Ⅱの実施に向けて

- ★理論研修Ⅱに向けての準備
- ★生き方探究教育推進部による打合せ

(2) 理論研修Ⅱのシナリオ

- ★理論研修Ⅱの実施
- ★シナリオ
- ★決定事項の集約について

実践研修 生き方探究教育の実践 20

(1) 教科等における実践に向けて

- ★実践授業を行う意義
- ★学習モデルの作成について

(2) 実践研修のもち方

(3) 生き方探究教育の評価について

まとめ 生き方探究教育のさらなる充実のために 24

(1) 年度末のまとめについて

(2) 次年度へ向けて

生き方探究教育の進め方(例)

一年間の生き方探究教育の進め方について、下のように考えました。校内事情に合わせて柔軟にとらえて活用してください。主任自らが活動の見通しをもち、準備を早目に進めることで充実した取組が可能になります。

| 時期 | 生き方探究教育の進め方 | 参照ページ | |
|----------------------|---|---|-------------------------------------|
| 4月 (年度末年度始休業中) | <ul style="list-style-type: none"> ★年間を通して必要となる資料の準備 ★学校教育目標を基にした全体計画の作成 ★生き方探究教育推進部会(仮称)の設置 ★キャリア発達課題の確認 | 3ページ 4ページ 5ページ 5ページ | |
| | 校内研修「理論研修Ⅰ」を実施 内容 <ul style="list-style-type: none"> ○生き方探究教育の目標について ○本校における生き方探究教育の全体計画・学年重点目標の提示 ○具体的な実践方法の紹介 ○各学年による児童のめざす姿の具体化 ○各学年による生き方探究教育の年間指導計画を作成 (年間の重点単元の絞り込み) | 6ページ | |
| 5月 | 「理論研修Ⅱ」の実施(12ページ) 内容 <ul style="list-style-type: none"> ○指導計画・学習指導案の書き方について ○各学年における重点単元での研究授業の検討会 | 「実践研修」の実施 (「理論研修Ⅱ」終了後随時) 内容 <ul style="list-style-type: none"> ○各学年における研究授業の実施 ○事後研究会における話合い | (理論研修Ⅱ) 12ページ (実践研修) 20ページ |
| 実践研修の中間報告 (夏季休業中) | <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の進捗状況の報告 ○実践報告 ○学習モデル(指導計画・学習指導案)の整理 ○研究方針の見直し・確認等 | | |
| 年度末 | <ul style="list-style-type: none"> ○各学年のめざす姿に迫ることができたかどうかの振り返り(年間の児童の評価、取組に対する成果と課題) ○年間の総括 ○次年度への評価物、キャリアノートの引継ぎ ○来年に向けての方向性、取組の提示 | 24ページ | |

理論研修 I
生き方探究教育の目的と意義

(1)理論研修 I の実施に向けて

職員会議で校務分掌が告示されると、いよいよ主任としての一年間が始まります。校内で「生き方探究教育を推進する担い手」となり、年間を通して充実した教育活動ができるように、スタートのこの時期を大切にしましょう。ここでは、「生き方探究教育とはどのような教育なのか」という基本的な考え方を教職員に研修してもらいます。これから生き方探究教育を推進していこうとしている学校はもちろん、既に取組が進んでいる学校も、この教育を実践する際の基盤となる重要な部分ですので、おさらいの意味も含めて理論研修を行うようにしましょう。

理論研修 I を実施するまでの動き

| 時期 | 生き方探究教育の推進の流れ | 参照ページ |
|----------------------------------|---------------------|-------|
| 始（4 休年 業度 中末 年度 度 | ★年間を通して必要となる資料の準備 | 3 ページ |
| | ★学校教育目標を基にした全体計画の作成 | 4 ページ |
| | ★生き方探究教育推進部会（仮称）の設置 | 5 ページ |
| | ★キャリア発達課題の確認 | 5 ページ |



理論研修 I の実施

★年間を通して必要となる資料の準備

研修や実践に必要な資料が校内にそろっているかを確認し、必要な資料を準備します。ない場合は、Web サイトからダウンロードするか、関係各課に連絡を取ってそろえましょう。学年に少なくとも一部あると話し合いがスムーズに進みます。

「年間を通して必要となる資料」

| 資料番号 | 必要な資料の名前 | 発行日 及び 発行元 | 配布状況 及び 入手手段 |
|------|--|--|--|
| ① | 京都市キャリア教育スタンダード「生き方探究教育」（以下、「生き方探究教育リーフレット」とする。） | 平成24年2月 京都市教育委員会 | 各市立幼稚園・小・中・高・総合育成支援学校に数部 イントラ内からダウンロード可 |
| ② | 京都発！確かな教育実践のために17 未来の樹を育てる 生き方探究教育（キャリア教育） （以下、「生き方探究教育ブックレット」とする。） | 平成22年3月 京都市総合教育センター カリキュラム開発支援センター 京都学びの街生き方探究館 企画推進室 | 各校に1部 カリキュラム開発支援センターの Web サイトよりダウンロード可 |
| ③ | 生き方探究教育（キャリア教育） 未来の樹を育てる「キャリアノート」 （以下、「キャリアノート」とする。） （本冊子） | 平成23年7月 京都市総合教育センター研究課 | 各校に1部 カリキュラム開発支援センターの Web サイトよりダウンロード可 |
| ④ | 生き方探究教育「校内研修用資料」 | 平成24年4月 京都市総合教育センター | 配布なし 京都市総合教育センター研究課 Web サイトよりダウンロード可 |
| ⑤ | （プレゼンテーションデータ） 生き方探究教育「校内研修用プレゼンテーション資料」 （以下、「プレゼン資料」とする。） | 平成24年4月 京都市総合教育センター | 配布なし 京都市総合教育センター研究課 Web サイトよりダウンロード可 |
| ⑥ | （冊子） 教科等における生き方探究教育の実践 | 平成24年4月 京都市総合教育センター | 配布なし 京都市総合教育センター研究課 Web サイトよりダウンロード可 |
| ⑦ | （冊子） 生き方探究教育 実践事例編 ～学ぶ力を育てるキャリア教育～ （以下、「生き方探究教育 実践事例編」とする。） | 平成20年4月 京都市総合教育センター | 各市立幼稚園・小・中・高・総合育成支援学校に数部 「生き方探究館」に残部あり |

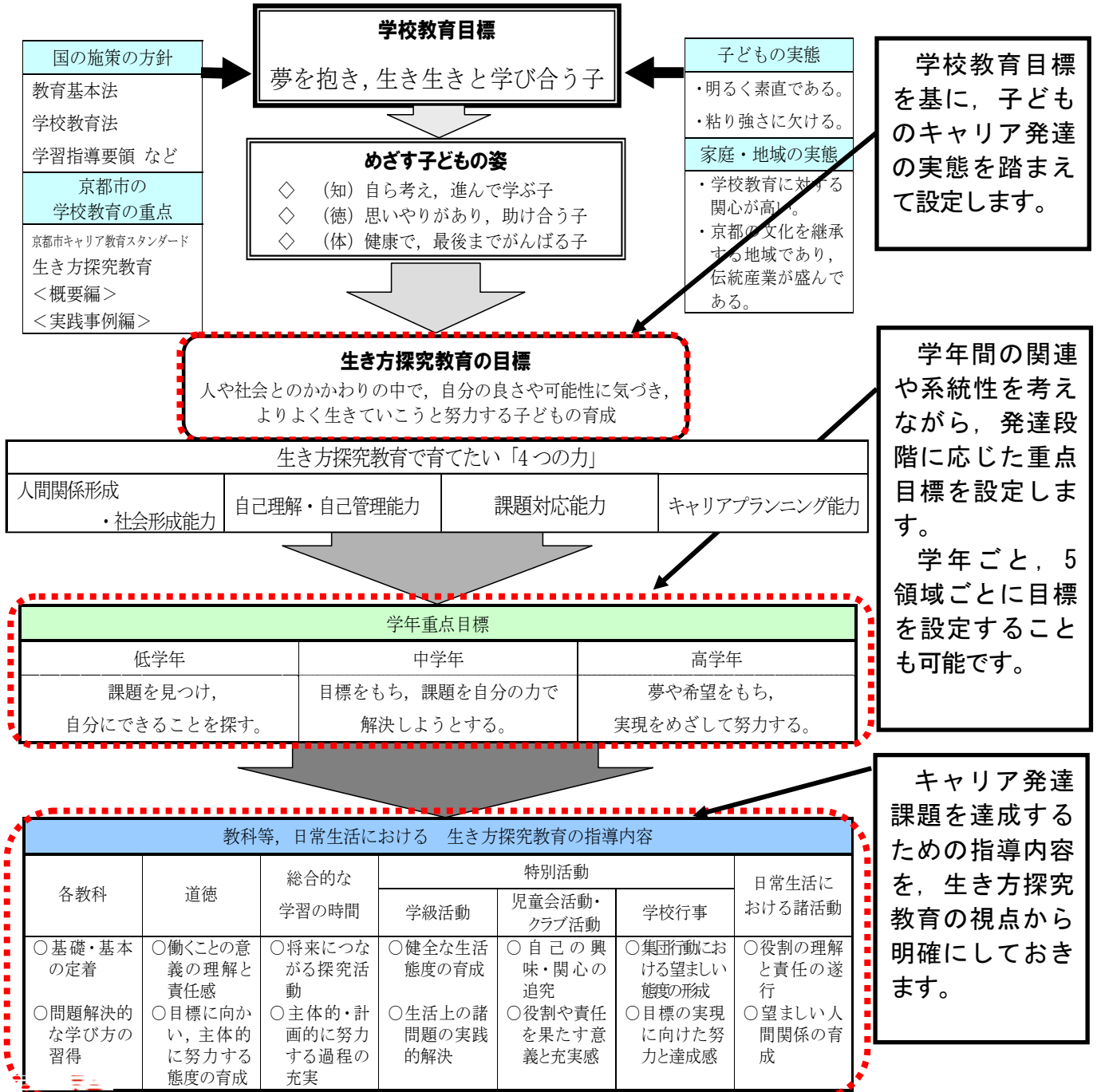
★学校教育目標を基にした全体計画の作成

以下は、資料②「生き方探究教育ブックレット」を参照して作成しました。学校教育目標を基にした、生き方探究教育の目標を明示することで、学校体制として、この教育をどのようにとらえて実践していくのかを示しましょう。
 (「京都発！確かな教育実践のために17 未来の樹を育てる生き方探究教育(キャリア教育)」p.7 参照)

生き方探究教育を踏まえた全体計画とは？

学校教育目標の実現のために、生き方探究教育の位置付けや関連を示したものが、「生き方探究教育全体計画」です。

平成〇〇年度 京都市立〇〇小学校 生き方探究教育全体計画(例)



★生き方探究教育推進部会（仮称）の設置

この部会では、推進に関する検討・提案を行います。また、校内研修会を企画・設定したり、異校種間や地域との連携を図るための連絡調整を行ったりします。各学年 1 名が部会に参加していることが望ましいですが、学校によっては低・中・高学年から 1 名が参加することも考えられます。

★キャリア発達課題の確認

資料①「生き方探究教育リーフレット」の 3 ページには、「【生き方探究教育で育てたい 4 つの力】に関わるキャリア発達課題（例）」が示されています。この発達課題を参照しながら、各校の発達課題を作成することが望ましいですが、この発達課題の例示を一つのめざす姿として設定することも考えられます。以下は、例示されたキャリア発達課題の小学校の部分のみを取り上げて示したものです。

【生き方探究教育で育てたい 4 つの力】に関わるキャリア発達課題（例）

（京都市教育委員会『京都市キャリア教育スタンダード 「生き方探究教育」』より抜粋）

| 育てたい 4つの力 | | 小学校 | | |
|------------------|-----------|---|--|---|
| | | 1・2年 | 3・4年 | 5・6年 |
| 人とともに 社会を生きる力 | ①人間関係形成能力 | ◆友だちの良さに気付く。 ◆お世話になった人に感謝する。 | ◆お互いの良さを認め、協力して学習や活動に取り組む。 ◆自分の生活を支えている人に感謝する。 | ◆自分と異なる考えや、人の優しさ、思いやりを理解する。 ◆相手の立場に立って考え、行動する。 |
| | ②社会形成能力 | ◆友だちや集団とともに行動することの楽しさを知る。 ◆自分の得意なことを見つけ、大切にすること。 | ◆身近な集団の中での役割を考え、行動する。 ◆地域の活動や家庭内で、自分ができる仕事を、責任をもってする。 | ◆所属する集団や家庭のためにできることや役割を考え、行動する。 ◆身近な消費生活を中心に、経済のしくみを知る。 |
| 自分を知り、 律する力 | ③自己理解能力 | ◆自分の得意なことを見つけ、大切にすること。 ◆自分の思いや考えが言える。 | ◆自分の良さを知り、得意なことを伸ばす。 ◆自分らしさを大切にすること。 | ◆自分の長がわかり、長所を伸ばし、短所を改善しようと努力する。 ◆自分の興味・関心の傾向に気付く。 |
| | ④自己管理能力 | ◆良いことと悪いことがわかる。 ◆約束や時間を守る。 | ◆自分のやりたいこと、良いと思うことを考え、行動する。 ◆きまりや規則がわかり、してはいけないことや我慢しなければならないことを自制する。 | ◆自分の行動について自己判断・自己決定し、主体的に行動する。 ◆ルールやマナーを考えて行動する。 |
| 課題を見つけ、 解決する力 | ⑤課題発見能力 | ◆自分と集団との関わりの中から課題を見つける。 ◆自分で課題を選ぶ。 | ◆自らをとりまく地域社会の中から課題を見つける。 ◆根拠をもって課題を選ぶ。 | ◆世の中に目を向け、自分の興味や能力に応じた課題を選び、それを整理する。 ◆根拠をもって課題を選び、それを整理する。 |
| | ⑥課題解決能力 | ◆知りたいことや興味のあることを本や図鑑でさがす。 ◆わからないことを尋ねながら、解決する。 | ◆見学したり、話を聞いたりして、情報を集める。 ◆自分の力で解決しようと努力する。 | ◆インタビューしたり、ICTを活用したりして、必要な情報を集める。 ◆多様な方法を考え、主体的に解決する。 |
| 夢や希望を つくりあげる力 | ⑦役割認識能力 | ◆様々な役割があることを知る。 ◆身近で働く人々の様子がわかる。 | ◆役割や分担の必要性がわかる。 ◆係の仕事などを通して、働くことの大切さや楽しさがわかる。 | ◆進んで役割を受けもち、責任を果たそうとする。 ◆職場見学などを通して、働くことの大切さや苦勞がわかる。 |
| | ⑧将来設計能力 | ◆学習や生活の目標を立てる。 | ◆目標や計画を立てることの必要性がわかり、自分に合った目標や計画を立てる。 | ◆振り返りに基づいて、より高い自己目標をもち、先を見通して計画的に行動する。 |

(2)理論研修 I のシナリオ

「理論研修 I」は二部構成となっています。第一部では、学校体制としてどのようにこの教育を推進していくのかということを経験者で共通理解します。第二部では、各学年（もしくは、低・中・高学年）に分かれ、「年間指導計画」を作成してもらいます。

以下のシナリオを参考にしながら、実りある理論研修を行ってください。

★理論研修 I の実施


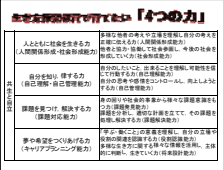
実施に要する時間： 1時間30分程度（第一部 20分、第二部 70分）

実施場所： 第一部…会議室等 第二部…各学年に分かれて

- 配布資料：
- 資料①「生き方探究教育リーフレット」を印刷したもの
(必要であれば、資料⑤「プレゼン資料」のスライド資料)
 - 全体計画（事前に推進部で作成）
 - 年間指導計画の例（本紙 p. 8, p. 10 どちらかのコピー）
 - 年間指導計画 様式①（本冊子 p. 9）
 - 年間指導計画 様式②（本冊子 p. 11）
- } 校内の取組に合わせて選択

- 準備物：
- 各学年の教科書(上・下)
 - 「指導計画」京都市スタンダード
 - 年間学校行事予定表
 - プロジェクタ
 - スクリーン
 - パソコン
 - 資料⑤「プレゼン資料」のデータ CD-ROM

★シナリオ (◆でクリック)

| 番号 | プレゼン資料のページ | シナリオ (例) | 参加者の動き ※留意点等 |
|----|--|--|--|
| 1 | <p>生き方探究教育のさらなる充実を求めて</p>  | <p>◆みなさんこんにちは。ただいまより、生き方探究教育 理論研修会 I を行います。配布資料は行き届いてますでしょうか。</p> <p>◆この研修は二部構成となっております。まず、第一部では、生き方探究教育とはどのような教育なのかということや、本校において、どのようにこの教育に取り組んでいくのかという全体計画についてお話しします。</p> <p>そして、第二部では、各学年（もしくは低・中・高）に分かれて、それぞれの学年で、年間を通して生き方探究教育に重点的に取り組む単元を話し合っ決めていただこうと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それではまず、生き方探究教育とはどのような教育なのかということについてお話ししたいと思います。お手元の、「京都市スタンダード 生き方探究教育」というリーフレットの1ページをご覧ください。</p> | <p>※スクリーンに資料⑤「プレゼン資料」を提示しておく</p> <p>・配布物を確認する。</p> |
| 2 | <p>理論研修 I 本日の流れ</p> <p>第一部 生き方探究(キャリア)教育とは？</p> <p>第二部 年間指導計画の作成についての話し合い</p> | <p>◆生き方探究教育とは、・・・・・・(定義を読む)</p> <p>ここにも示されているように、この教育は、自分の生き方を見つめる、人や社会と関わる、役割を果たすことなどを通して、自己実現をめざす教育であると言えます。また、指導者側から考えると、この教育を実践するというのは、子どもたちがいつか社会へと自立していくとき、子どもたちにどのような社会人になってほしいのかという姿を具体的に思い描き、その日に向け、目の前にいる子どもたちに付けたい力とは何かを考えながら、日々の教育活動に取り組むということだと思います。</p> <p>◆この、「いま、目の前にいる子どもたちに付けたい力」というのが、定義の中の「社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度」だと言えます。リーフレットの中には、「生き方探究教育で育てたい4つの力」として例示されています。</p> | <p>・「生き方探究教育リーフレット」を見る。</p> |
| 3 | <p>生き方探究(キャリア)教育とは</p> <p>生き方探究教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことができるようにする教育である。</p> | | |
| 4 | <p>生き方探究の時代を育む「4つの力」</p>  | | |

| | | |
|---|---|--|
| | <p>一つめが、人とともに・・・・・・，（以下、4つの力について紹介する。） この4つの力はいくまで例示なので、この4つの力を基に、本校の児童の課題及びどのような力を付けさせたいのかということを考え、学校目標に基づいた「生き方探究教育の全体計画」を作成しました。</p> <p>お手元にお配りした本校の全体計画を御覧ください。本年度、学校教育目標を受けて本校の生き方探究教育の目標を「〇〇」としました。また、部会で話し合った結果、4つの力のうち、特に本校の子どもたちは〇〇の力が課題であると考え、〇〇の力を重点的に育て、一年間の成長をとらえていこうということ考えます。そこで、〇〇の力の育成を意識した学年の重点目標をこのように設定しました。低学年の重点目標は、・・・・（低・中・高、もしくは各学年の重点目標を事前に推進部の方で設定し、ここで発表する。）</p> <p>それでは、この重点目標に沿って、今から各学年に分かれて、重点的に取り組む単元を考えて、各学年の年間指導計画を作成していただこうと思います。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の表を見る。 ※重点目標をどのように設定するかは、学校事情に合わせる。 ・各学年の重点目標を知る。 |
| 5 | <p>◆第二部の方に移ります。</p> <p>第二部では、各学年に分かれていただいて、年間指導計画を作成していただけます。その際、全体計画や重点目標を基にして下さい。目標に向けて重点的に取り組みたい単元を設定しましょう。</p> <p>様式①（もしくは様式②）「年間指導計画作成用紙」を学年に配布していますので、そこに書きこんで下さい。作成例としまして、裏面に、昨日、推進部の方で作成した年間指導計画を印刷しています（もしくは、本冊子の p. 8, p. 10 に示した例を印刷して配布する）。</p> <p>御不明な点がありましたら、推進部のメンバーにお尋ねください。話し合う際の参考に、各学年の指導計画（京都市スタンダード）と教科書を準備しております。1年生は～教室で、2年生は～（以下、話合いの場を知らせる。）</p> <p><教科等を絞らずに取り組む場合…様式①></p> <p>学年の教科等を横断的に見て、重点目標の具現化をめざして重点的に取り組む単元を選択していただこうと思います。どうぞよろしくお願いします。</p> <p>（p. 9 様式①「年間指導計画」を配布）</p> <p><特定の教科等に焦点を当てて取り組む場合></p> <p>本校では、〇〇科（教科等）の研究を進めております。そこで、まずは、〇〇科の重点単元を選択して下さい。そして、関連のある教科・単元を横断的に考えて、他教科等でも重点単元を選択して下さい。</p> <p>（p. 11 様式②「年間指導計画」を配布）</p> | <ul style="list-style-type: none"> ※裏面に例を印刷する。 ※「指導計画」「教科書」は、各学年で持参することも考えられる。 |

<その後の動き>

低・中・高学年（もしくは各学年）で、年間の指導計画を作成します。

次の理論研修Ⅱは、ここで作成された年間指導計画を基に話を進めます。作成された年間指導計画は推進部で目を通し、まとめておきましょう。年間指導計画例は、次ページの★年間指導計画の立案を参照してください。（資料②「生き方探究教育ブックレット」p. 8を基にして作成しています。）

また、文部科学省から出ている『小学校キャリア教育の手引<改訂版>』（p. 48～60）にも、年間指導計画の作成方法について詳しい説明が掲載されています。

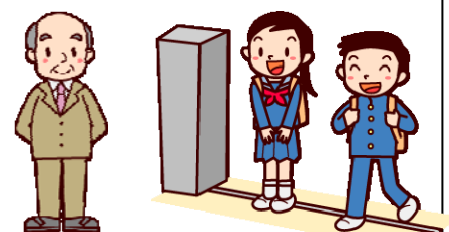
この資料は、書店で購入することができます。また、文部科学省のWebサイトからダウンロードも可能です。以下に出典、Webサイトアドレスを載せておくので参考にしてください。

文部科学省 『小学校 キャリア教育の手引 <改訂版>』 平成23年5月 教育出版
「第2章 第3節 年間指導計画の作成」を参照
Webサイトアドレス

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1293933.htm

尚、下記の文部科学省のWebサイトは、ここでは紹介していません
「研修で活用できる動画やPDFファイル」などを閲覧することができます。研修の資料としてご活用ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm



★年間指導計画の立案

以下の例示を参照しながら部会で話し合い、学校の特色や課題、年間行事計画などを考慮して、年間の指導計画を立案します。(資料①「生き方探究教育ブックレット」p.8,9を合わせて参照のこと)

ステップ1

生き方探究教育で育てたい“4つの力”(もしくは、重点的に育てたい力)を視点に、全ての教育課程を見直し、横断的に教科等や単元のつながりを見ていきましょう。

ステップ2

重点的に取り組む教科等や単元を設定し、年間指導計画を作成します。

ステップ3

各学年で作成した年間指導計画をまとめて提示することで、6年間を通しての系統だった指導に生かすようにしましょう。また、学校行事との関連付けることで、計画的に取り組を進めることができるようにしましょう。

「年間指導計画」(様式① p.9)の例

第5学年 生き方探究教育の年間指導計画

| 学年の重点目標 | | |
|---|--|--|
| 人とともに社会を生きる力…(人)学校全体・地域の人のつながりを意識して、自分の思いや考えを発信することができるようにする。 自分を知り、律する力……(自)なりたい自己像を具体的にもち、客観的に自己をとらえながら目標に向けて努力を続けることができるようにする。 課題を見つけ、解決する力…(課)自ら課題を見つけ、既習事項を活用しながら主体的に解決することができるようにする。 夢や希望をつくりあげる力…(夢)職業や将来の夢を意識して、自分の生き方を考えることができるようにする。 | | |
| 月 | 各教科等 () 教科等名 「 」 単元・題材名 *…生き方探究教育を進める上で大切にしたい視点 | 日常生活における諸活動 |
| 4 | (道)「おはよう」2-(1) *自分から気持ちのよいあいさつをしている。 (国)「新聞の編集のしかたや記事の書き方に目を向けよう」 *新聞記者の仕事や社会の動き、新聞の役割に関心をもっている。(夢) (算)「体積」 *社会の中で使われている体積の表記を探し、体積という数量的概念の重要性に気付いている。(課) | ・「あいさつ運動」(人) ・「クラスのためにできることを実行しよう」(係活動、当番活動)(夢) |
| 5 | (特・学校行事)「市内めぐりをしよう」 *市内めぐりを通して、グループで協力することの大切さを知るとともに、公共の場での言動について考えたり、時間を守ることの重要性について話し合ったりしている。 (図)「感じたことを伝えたい(絵画)」 *自分や友だちの作品の感じ方や表現について自分なりの思いをもって話し合っている。(自) (家)「見つめよう 家庭生活」『②できる仕事から始めよう』 *家庭の中における自分の役割について考え、進んでできる仕事を探し、取り組もうとしている。(課) | ・「5年〇組お助け隊」(学校の困りを解決する活動)(課) ・「授業における毎時間の振り返り活動」(自) |
| 6 | (国)「伝記を読んで、自分の生き方について考えよう」 *自分の地域の暮らしを守ることの意義を知り、自分の生き方について考えている。(夢) (総)「スチューデントシティ学習」 *スチューデントシティ学習を通して、職業や社会に関心をもち、自分の生き方や夢についての考えを深めている。 | ・「週末の自分を見つめよう」(家庭学習「日記」) |
| 7 | (国)「活動を報告する文章を書こう」 *地域の人にわかりやすく自分たちの取組を報告している。(人) (社)「わたしたちの生活と食料生産」『米づくりのさかんな庄内平野』 *地域の農家の人の話や思いを聞いて、自分の考えをまとめている。(人) (理)「生命のつながり(4)」『人のたんじょう』 *自己を見つめ、かけがえのない命の大切さに気付いている。(自) | ・「〇〇会のみなさんとの交流しよう」(継続した地域交流に参加) |

様式①「年間指導計画」

第 学年 生き方探究教育の年間指導計画

| 学年の重点目標 | | |
|---------|--|-------------|
| | | |
| 月 | 各教科等の重点単元 () 教科等名 「 」 単元・題材名 *…生き方探究教育を進める上で大切にしたい視点 | 日常生活における諸活動 |
| 4 | | |
| 5 | | |
| 6 | | |
| 7 | | |
| 8 | | |
| 9 | | |
| 10 | | |
| 11 | | |
| 12 | | |
| 1 | | |
| 2 | | |
| 3 | | |

「年間指導計画」(重点教科等とタイアップした取組の場合)(様式② p.11)の例

第3学年 生き方探究教育の年間指導計画

| 学年の重点目標 | | | | |
|--|--|---|--------------------------------|-------------|
| 人とともに社会を生きる力…①同学年, 低学年の人とのつながりを意識して, 自分の考えや思いを発信することができるようにする。 自分を知り, 律する力……②やってみたいこと, がんばりたいことを目標にして, 努力を継続することができるようにする。 課題を見つけ, 解決する力…③学習と生活・社会とのつながりに気付き, 意欲的に課題解決を図ろうとする。 夢や希望をつくりあげる力…④社会を構成する様々な職業を知るとともに, 自分の社会的役割について考えることができるようにする。 | | | | |
| 月 | 理科 | における重点単元 | 各教科等の重点単元 ()教科等名 「」単元・題材名 | 日常生活における諸活動 |
| | | *…生き方探究教育を進める上で大切にしたい視点 | | |
| 4 | 「植物を育てよう(1)～(4)」 *日常で目にしている植物の様子から疑問に思うことを課題として設定し, 意欲的に課題解決を図っている。③ | (社)「わたしたちの京都市 わたしたちのまち」 *京都市に属している市民としての自己を客観的にとらえている。② | ・「あいさつ運動」① | |
| 5 | 「こん虫をそだてよう」 *昆虫の不思議に魅了された人々の生き方にふれ, 昆虫の世界に関心を高めている。 | (音)「むかしから歌いつがれている歌を歌おう」 *地域の人に, 昔から歌い継がれている歌について話を聞き, 関心を高めている。① | ・「自分の役割をきちんと果たそう」(係活動, 当番活動)④ | |
| 6 | 「植物を育てよう(1)～(4)」 *植物の成長を時系列でとらえ記録している。④ | (国)「ほうこくする文章を書こう」 *生活の中で見つけた記号について, 学校の人たちへわかりやすく報告している。① | ・「縦割活動」(異年齢グループの中で自分の役割を果たす)④ | |
| 7 | 「動物のすがたとかんきょう」 *身の回りの生物と環境との関わりを知り, 自分にできること, 気を付けることなどを考えている。③ | (図)「光を通して」(造形遊び) *透過性のある材料に光を通して遊び, 感じたことをクラスで交流する中で, 自分の思いを表現しようとしている。② | ・「授業における毎時間の振り返り活動」② | |
| 8 | 「じゅうけんきゅう」 *生活の中の様々な事象に疑問をもち, 意欲的に課題解決を図ろうとしている。 | (社)「わたしたちのくらしとはたらく人びと」 *商店めぐりを通して, 職業や働く人に対する関心を高めている。④ | ・「週末の自分を見つめよう」(家庭学習「日記」)② | |
| 9 | 「植物を育てよう(1)～(4)」 *植物の成長を振り返り, 生命の不思議, たくましさなどをクラスで交流し, 自分のこれからの生き方につなげている。④ | (国)「話し合って決めよう」 *インタビュー活動を通して, 人とのつながりを感じている。家族の人に自分たちの学校行事を紹介している。① | ・「おもちゃショーをひらこう」(休み時間における会の運営)④ | |
| 10 | 「太陽のうごきと地面のようすをしらべよう」 *太陽と陰の関係を様々な観測地点から考える活動を通して, 自己を客観的にとらえようとしている。② | (保)「毎日の生活とけんこう」 *自分の生活を振り返り, 改善を図っている。② | ・「週末の自分を見つめよう」(家庭学習「日記」)② | |
| 11 | 「光のはたらきをしらべよう」 *太陽の光で水を温める方法を, 今までの学習を生かして考えている。③ | (算)「重さ」 *日常の事象から, 重さを実感する場面を想起し, 学習の理解につなげている。③ | ・「おもちゃショーをひらこう」(休み時間における会の運営)④ | |
| 12 | 「ものの重さをしらべよう」 *重さや体積に対する自分の感覚の不正確さやズレに興味をもち, 科学的な客観性の大切さに気付いている。② | (算)「分数」 *分数のわかりやすい説明の仕方を考え, 高学年に説明しようとしている。① | ・「おもちゃショーをひらこう」(休み時間における会の運営)④ | |
| 1 | 「豆電球にあかりをつけよう」 *明かりのつかない懐中電灯の原因を考える活動を通して, 学習と生活とのつながりを実感している。③ | (社)「地域や生活のうつり変わり」 *地域の人との交流を通して, 生活の変化, 地域の暮らしの変化に関心をもっている。① | ・「おもちゃショーをひらこう」(休み時間における会の運営)④ | |
| 2 | 「じしゃくのふしぎをしらべよう」 *低学年が楽しめるような磁石の性質を利用したおもちゃを作っている。① | (国)「ほうこく書を書こう」 *地域の人に, 自分が調べてきたことをわかりやすく工夫して発表している。① | ・「おもちゃショーをひらこう」(休み時間における会の運営)④ | |
| 3 | 「おもちゃショーをひらこう」 *学習を振り返り, 既習事項を活用して意欲的におもちゃ作りに取り組んでいる。③ | (音)「曲のよさを感じ取ってえんそうをくふうしよう(みんなの音楽パーティ)」 *卒業する6年生へのプレゼントとして, 演奏を工夫しようとしている。① | ・「おもちゃショーをひらこう」(休み時間における会の運営)④ | |

様式②「年間指導計画」(重点教科等とタイアップした取組の場合)

第 学年 生き方探究教育の年間指導計画

| 学年の重点目標 | | | |
|---------|-------------------------|----------------------------------|-------------|
| 月 | における重点単元 | 各教科等の重点単元 () 教科等名 「 」 単元・題材名 | 日常生活における諸活動 |
| | *…生き方探究教育を進める上で大切にしたい視点 | | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 11 | | | |
| 12 | | | |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

理論研修Ⅱ
生き方探究教育の実践に向けて

(1)理論研修Ⅱの実施に向けて

理論研修Ⅰでは、今年度における生き方探究教育の方向性を打ち出すことができたと思います。

理論研修Ⅱでは、いよいよ、どのような実践を行っていくのかという具体的な実践のイメージを先生たち一人一人にもってもらい、実践に向けての準備を進めてもらうことになります。

理論研修Ⅰで各学年（もしくは、低・中・高）に作成してもらった「年間指導計画案」を基に、年間数回の実践授業を計画してもらいましょう。そして、そのための「指導計画案・学習指導案」の作成方法を示しましょう。

理論研修Ⅰを実施するまでの動き

| 時期 | 生き方探究教育の推進の流れ | 参照ページ |
|---------------|-------------------------------------|-------|
| 4月 ～ 5月 | ★理論研修Ⅱに向けての準備 ★生き方探究教育推進部会による打合せ | このページ |



理論研修Ⅱの実施

★理論研修Ⅱに向けての準備

理論研修Ⅱで必要となる資料をプリントアウトしておきましょう。また、学習モデル（指導計画案・学習指導案）の空の様式を作成し、データを校内の共有フォルダに保存しておくといよいでしょう。研修の中では使用しませんが、今後、学習モデルを作成する際に必要となります。推進部で役割を分担して準備するとよいでしょう。尚、次ページには、学習モデル例を示しています。内容は、資料⑥「教科等における生き方探究教育の実践」（p. 21, 22）に掲載しているものと同じです。

★生き方探究教育推進部会による打合せ

理論研修Ⅱに向けて、各学年で作成した年間指導計画を基に部会で話し合い、今年度の実践の在り方について部会をもつ必要があります。部会の中では、「本年度の実践研修の内容」「公開授業との兼ね合い」「研究発表会のもち方」「学校全体で共通して行う諸活動の内容」などについて打合せをしておきましょう。次の実践研修をスムーズに進めるための準備になります。下に様々な取組例についてパターンを示しておきます。校内事情に合わせて選択してください。

パターン①

| 実践の形態 | 常時活動型 |
|---------|--|
| 実践方法 | 年間で全学年の取組をまとめる。 |
| 公開授業 | 低・中・高学年の部会メンバー（1回ずつ程度） |
| 研究のまとめ方 | 学年で取り組んだ常時活動の成果と課題、低・中・高学年で作成した学習モデルと実践後の反省・感想などをまとめる。 |

パターン②

| 実践の形態 | 校内研究とのタイアップ型 |
|---------|--|
| 実践方法 | 年間で全学級の取組をまとめる。 校内研究で重点的に取り組む教科等と関連付けた取組を実践する。 |
| 公開授業 | 全学年（1回～2回ずつ程度） |
| 研究のまとめ方 | 学年で取り組んだ常時活動の成果と課題、各学年で作成した学習モデルと公開授業に伴う事後の反省・助言をまとめる。 |

パターン③

| 実践の形態 | 校外発信型 |
|---------|---|
| 実践方法 | 年間で全学級の取組をまとめる。 各学年で実践教科等を決定し、生き方探究教育を中核に据えた授業研究を行う。 |
| 公開授業 | 全学級（研究発表会までに）（1回～2回ずつ程度） 研究発表会（全学年発表） |
| 研究のまとめ方 | 学年で取り組んだ常時活動の成果と課題、各学級で作成した学習モデルと公開授業に伴う事後研修会の反省・助言をまとめる。 |

生き方探究教育の視点を踏まえた「指導計画案」の様式例

| | | | |
|--|---|--|--|
| 単元 | 8 計算のじゅんじょ (4時間) 9月下旬 | | |
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ () を含む式を正しく計算したり, >, <, = を使って式に表したりすることができるようにする。 ・ 加法の結合法則, 及び () や >, <, = の意味と使い方を理解できるようにする。 | | |
| 単元目標と生き方探究教育との関連 | <ul style="list-style-type: none"> ※相手意識をもって問題集づくりに取り組んだり, ペアやグループの中で考えを出し合うことで, 訂正したり考えを変えたりする。(人間関係形成・社会形成能力) ※学習内容や自分の理解に合わせた問題を作成する。(自己理解・自己管理能力) ※課題を, 生活体験に結び付けて考えたり, 既習事項を活用しながら考えたりする。(課題対応能力) ※振り返り活動を通して, 自己の成長をとらえるとともに, 次時のめあてを立てる。(キャリアプランニング能力) | | |
| 単元の評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 数量や図形についての技能 ・ 計算の順序を考えて () を含む式を正しく計算したり, >, <, = を使って大小関係を式に表したりすることができる。 ・ 数量や図形についての知識・理解 ・ 数量や図形についての知識・理解 | | |
| 時 | 学習活動 (●中心活動) | 視点 (評価方法) ※準備物 面と関連している 生き方探究教育の力 | |
| 1・2 | <ul style="list-style-type: none"> ● () の意味を知り, () を用いた式の計算をする。 ・ P104 のあひるが池に来る場面をイメージして, 課題を把握する。 ・ 「じゅんに」と「まとめて」の2つの考え方を式に表す。 ・ 「じゅんに」と「まとめて」の考え方の式の共通点と相違点をペアで話し合う。 ・ クラスで考えを交流する。 ・ 「じゅんに」と「まとめて」の2通りの考え方を, それぞれ1つの式に表すようにする。 ・ () を用いる場合を知る。 ・ じゅんに足しても, まとめて対しても, 答えは同じであることを確認する。 ・ P105②③で () を用いて数量の関係を表す。 | <ul style="list-style-type: none"> * 児童の興味を喚起するような挿し絵を提示したり, プレゼンテーションソフトの動画を見せたりすることで, 題意を把握することができるようにする。 * ペアで考えを交流することで, 自分の考えを振り返ったり, 友だちの考えの良さに気付いたりすることができるようにする。 ○ 絵図と式とが一致するように, 絵図を使って式の説明をさせる。 算活 絵図を使って加法の結合法則を表す式の意味を説明する活動 ○ 1つの式に表すときには, まとめて足す部分で () を用いることを知らせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ④ 数量の関係を簡潔に表し, () を用いた式の計算ができる。(ノートへの記述) ④ () の意味と加法に関する結合法則を理解している。(発表, ノートへの記述) ④ 既習事項を活用して, 数量の関係を簡潔に表し, () を用いた式の計算ができる。(ノートへの記述) |
| <p style="text-align: center;">この時間に取り入れた学習活動・学習展開の工夫</p> <p style="text-align: center;">この力を育てるための学習活動・学習展開の工夫を 評価の視点の文言に加え, 下線を引いて強調する。</p> | | | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ● () を使った式を立てるような問題づくりをする。 ・ 「みんなが解きたくなくなるような問題集をつくろう」という課題を知る。 ・ 問題をつくるときの注意点を話し合う。 ・ つくった問題を, 友だちと話し合い, 問題文の校正を行う。 ・ 絵やヒントを問題文に加え, 問題集を完成させることに工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> * 「問題集づくり」という目的を設定することで, 児童の作成意欲を高めることができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ④ <u>問題を解く人のことを考えたり, グループで問題を解き合ったりすることを通して, 問題集づくりに進んで取り組んでいる。(問題文, 問題を作成している様子)</u> |
| <p style="text-align: center;">この時間に意識して育てたい力</p> <p style="text-align: center;">この時間に, 授業を通して育てたい力を, 評価の視点の下に明記する。</p> | | | |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ● >, <, = の意味と使い方を理解し, 数量関係を式に表す。 ・ P106①の文房具屋で買い物をする場面をイメージして, 課題を把握する。 ・ 150円で消しゴムと鉛筆が買えるか買えないかを考える。 ・ 自分の考えをペアで話し合う。 ・ 買える場合と買えない場合の, 数と式の大小関係を明らかにする。 ・ >, <, = の意味と使い方を知る。 ・ >, <, = を使って式に表す。 | <ul style="list-style-type: none"> * 問題集づくりの目的を提示したり, 具体物を準備したり, 劇をしたりすることで, 活動をイメージし, することを把握することができるようにする。 ○ 代金を式に表して求めればよいことを確かめる。 算活 等号・不等号を用いて大小関係を式に表す活動 ○ 既習の >, < を想起させる。 ○ どんな場合に >, <, = を使うかを知らせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ※お買い物遊びのための具体物 ④ <u>買い物遊びをペアで取り組み, >, <, = の意味と使い方を理解している。(発表, ノートへの記述)</u> |

生き方探究教育の視点を踏まえた「学習指導案」の様式

| | | | | |
|---|--|---|---|-------------|
| 学習指導案 | | 第2学年 算数科 | 単元名「計算の じゅんじょ」 | (3時間目/全4時間) |
| 本時の目標 | | | | |
| ○問題を解く人のことを考えたり、グループで問題を解き合ったりすることを通して、問題集づくりに進んで取り組んでいる。 | | | | |
| <関心・意欲・態度> →人間関係形成・社会形成能力 | | | | |
| 本時の展開 | | | | |
| 学習目標 | 「もんだいしゅうをつくろう」 | | | |
| 学習展開 | 学習活動 指導者の発言 | *支援 ○留意点 相相談活動 算活算数的活動 | 評価の視点 (評価方法) ※準備物 | |
| 課題設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを知る。 今まで学習してきたことを生かして、問題づくりに取り組みます。 ・自分のめあてを書く。 ・めあてを発表する。 ・問題づくりの目的を知る。 つくった問題は、みんなが賢くなるためとしてまどめたいと思います。 ・問題づくりの仕方を知る。 生活の中から、問題づくりの場面を思い定考えましょう。 | <ul style="list-style-type: none"> 相指導者と相談して本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。 目標を設定することによって、目的を定めることが高めることか | <p>その時間の学習目標 (教科目標) の提示</p> <p>児童にもわかる言葉で示す。板書でも提示する。</p> | |
| | <p>自己目標の設定</p> <p>学習目標を知った後で、自己目標を設定する活動を取り入れる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○アイデアが出にくい場合は、グループで話し合って意見を出し合うようにする。 *難易度や内容などをよく吟味させる。 ○内容が、既習事項から逸脱しないようにする。 | クシート | |
| 課題解決 (グループ・クラス) | <ul style="list-style-type: none"> 問題をつくるときに、どんなことに気を付けたいですか。 ・問題をつくるときの注意点を考える。 ◎解けない問題はつからない。 ◎数字を難しくしすぎたり、簡単にしすぎたりしない。 解きたくなくなるような問題集にするために、どんなことを工夫したらいいですか。 ・問題づくりの工夫を考える。 ◎字を大きく丁寧に書く。 ◎絵や図をかく。 ◎ヒントをかく。 ◎難易度をかく。 ・絵やヒントを問題文に加え、解く意欲が湧くように工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○アイデアが出にくい場合は、グループで話し合って意見を出し合うようにする。 | <p>◎問題を解く人のことを考えたり、グループで問題を解き合ったりすることを通して、問題集づくりに進んで取り組んでいる。(問題文、問題を作成している様子)</p> | |
| 課題解決 (グループ) | <ul style="list-style-type: none"> ・つくった問題を、友だちと解き合うことで、問題文の校正を行う。 できた問題をグループで解き合ひましょう。解けない問題や、わかりにくい問題はありませんか? ・改善点を指摘し合い、よりよいものに仕上げる。 ・絵や図をかいたり色を塗ったりして仕上げる。 ・早く考えられた児童は、問題文を見やすくなるような工夫をしたり、まだできていない友だちの相談相手にのったりする。 ・ワークシートを提出する。 | <p>評価の視点の下に、めざす児童の姿を具体的に明記</p> <p>授業中にこのような児童の姿が見られるように、指導を工夫する。</p> | <p>【人間関係形成・社会形成能力】問題に取り組む人が、解きたくなくなるような工夫を考える。グループでつくった問題を解き合い、指摘し合ったり、訂正を加えたりしている。</p> | |
| 振り返り | <ul style="list-style-type: none"> 今日の学習を振り返りましょう。 ・次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。①困り (わからなかったこと) ②がんばった・できたこと ③友だちのすごいところ ④次の時間にがんばりたいこと ・ノートを提出する。 | <ul style="list-style-type: none"> *その時間を振り返ることで、自己理解を深めることができるようにする。 相友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時にがんばりたいことを考えたりする。 | | |

学習目標、自己目標に対する振り返り活動

振り返りの観点については、クラスの実態に合わせて設定する。適宜、相談活動を取り入れる。

(2)理論研修Ⅱのシナリオ

「理論研修Ⅱ」は二部構成となっています。第一部では、生き方探究教育の視点から授業に取り入れた学習活動・授業展開の工夫や、指導計画案・学習指導案の様式、更に実践事例を先生たちに伝達します。第二部では、各学年に分かれていただき、理論研修Ⅰで作成した「年間指導計画」を基に、どの教科等・単元で授業研究を深めるのかということについて話し合ってもらいます。そして、実践に向けて、指導計画案、学習指導案の作成の準備をしてもらいます。

なお、以下に示したシナリオは、13ページの「パターン③」を進める際のものであります。

★理論研修Ⅱの実施


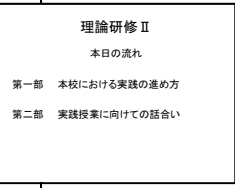
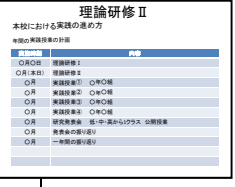
実施に要する時間： 1時間45分程度（第一部 45分、第二部 60分）

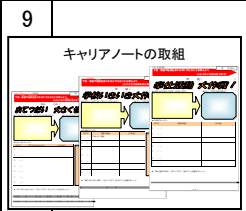
実施場所： 第一部・・・会議室等 第二部・・・各学年に分かれて

- 配布資料：
- ・理論研修Ⅰで作成した「年間指導計画」（全学年分をまとめたもの）
（必要であれば、資料⑤「プレゼン資料」のスライド資料）
 - ・生き方探究教育推進部会で作成した資料（今年度の授業研修予定、学校での取組案等）
 - ・資料②「生き方探究教育ブックレット」p.10, 11のコピー
 - ・資料⑥「教科等における生き方探究教育の実践」p.1～23（各学年1部程度）
 - ・資料③「キャリアノート」年間指導計画と各学年分のページ

- 準備物：
- ・各学年の教科書(上・下)
 - ・「指導計画」京都市スタンダード
 - ・資料⑦「生き方探究教育 実践事例編」
 - ・プロジェクト
 - ・スクリーン
 - ・パソコン
 - ・資料⑤「プレゼン資料」のデータCD-ROM（プレゼン番号6から使用）

★シナリオ（◆でクリック）

| 番号 | プレゼン資料のページ | シナリオ（例）(p.13下のパターン③を想定) | ・参加者の動き ※留意点等 |
|----|---|---|--|
| 6 |  | <p>◆みなさんこんにちは。ただいまより「生き方探究教育 理論研修会Ⅱ」を行います。配布資料は行き届いてますでしょうか。</p> <p>◆この研修は二部構成となっております。まず、第一部では、生き方探究教育の実践をいかに進めていくのかということについて私の方からお話しします。第二部では、各学年に分かれて、公開授業を行う単元と本時の暫定的な決定と、それに伴う日々の取組、他教科等の関連について話し合っていたきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。</p> <p>◆それではまず、生き方探究教育の実践をいかに進めていくのかということについて推進部で決定したことについてお話しします。お手元の資料を御覧ください。</p> <p>（以下は例示→）全学年で1回ずつの校内研究授業、そして〇月〇日の研究発表会の日には、全学年1学級の公開授業を考えています。生き方探究教育を様々な教科等で実践し、その結果どのような子どもたちの成長が見られたかという成果を、〇月の研究発表会では公開できたらと思っています。</p> <p>当日の公開する授業の教科等については、事前に推進部会の方で話し合っ決定いたしました。</p> <p>1年生は道徳での公開授業、2年生は国語科での公開授業、3年生は・・・4年生は・・・、5年生は・・・、6年生は・・・と決まりました。</p> | <p>※スクリーンに資料⑤「プレゼン資料」を提示しておく。</p> <p>・配布物を確認する。</p> <p>・「今年度の授業実践の予定」を見る。</p> <p>※事前に推進部で作成する。</p> |
| 7 |  | | |
| 8 |  | | |



◆それから、この各学年の教科等における研究に加えて、道徳と特別活動の時間を活用して、この「キャリアノート」の実践を計画しています。みなさんに、当該学年のページのコピーを配布しています。配布物にある年間計画例を御覧ください。「4つの力」の育成をめざして、キャリアノートを実践してください。毎月、1週目の朝の時間（各校で設定されている帯の時間、もしくは特別活動の時間）を活用して、取り組むようにしてください。

・「キャリアノート」の配布物を見る。

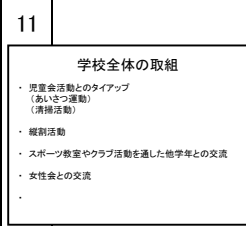


◆年間を通して作成したこのノートは、今年から子どもたちが卒業するまで保存しておきたいと思っています。子どもたちに持ち帰らせると紛失してしまうおそれがあるので、学級で保管するようにしてください。（保管の方法については、各校の実態に合った方法を工夫することとする。）

キャリアノートの作成を通して子どもたちのキャリア発達をうながす契機にすることはもちろん、記述の内容は、学年会、保護者懇談会、学級通信などの資料として活用していただけたらと思います。

この取組をまとめて、年度末には本校の研究成果として発信したいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。

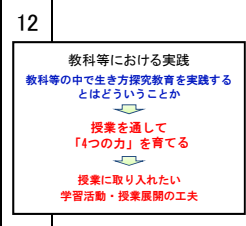
・「学校全体の取組案について」を見る。
※事前に推進部で作成する。



◆次に、学校全体で取り組む常時活動の取組として、以下のような提案をしたと思います。配布物を御覧ください。

（以下は例示→）一つめは、あいさつ運動の見直しです。昨年度も児童会を中心としたあいさつ運動を行っていましたが、今年度も引き続き行っていきたいと思っています。ただし、毎年の取組となって子どもたちに定着してきたところもあるものの、取組が形骸化して、あいさつをする児童としない児童の意識差が生まれているように思います。そこで、今年度は「生き方探究教育の視点」で、この活動を見直したいと考えています。具体的には、・・・・。

生き方探究教育の視点を踏まえた常時活動の取組について
以前から校内で取り組んでいる諸活動を、生き方探究教育の「4つの力」の育成という視点でとらえ直すことが大切です。
「あいさつ運動」「地域の清掃活動」「読み聞かせ」「縦割活動」「児童会活動」など、今までの取組を生かしながら新たな工夫を加えることで、「4つの力」の育成をめざすことができるようになります。



◆それでは次に、教科等における生き方探究教育の実践についてお話しします。生き方探究教育の目的は、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を支援することであるということ、前回の研修でお伝えしたと思います。その生き方探究教育を「教科等で実践する」というのは、教科等の授業を通して、この教育で育てたい「4つの力」を育てていくということです。

・「授業に取り入れたい『学習活動・授業展開の工夫例』」を見る。



◆お手元にある資料「教科等における生き方探究教育の実践」の2ページ、「授業に取り入れたい『学習活動・授業展開の工夫例』」を御覧ください。ここには、生き方探究教育を実践するに当たって、教科等に取り入れたい学習活動・授業展開の工夫例が書かれています。これらの学習活動や授業展開の工夫を取り入れる際には、留意点を意識しながら、右側にあるような子どもたちの思いや気付きをもたせられるように授業に取り入れることで、教科等の授業を通して「4つの力」の育成が可能となります。3ページ以降には、学習活動・授業展開の工夫を取り入れる際の指導の工夫例が書かれています。後で学年に分かれて実践単元を計画する際の参考資料に活用してください。

・配布資料を見る。

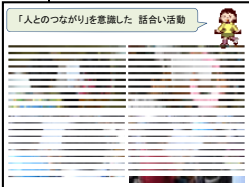
・配布資料を見る。
※各校の実態に合わせて、学習モデルの様式を決めてお

ージ, 11 ページのコピーを御覧ください。総合的な学習の時間における学習モデルについては, この様式で統一したいと思います。ただし, ここに示されている「生き方探究教育で育てたい力」は, 以前の力が示されているので, 新しい「4つの力」で作成するようにしてください。

これらの様式は, 校内の共有フォルダに保存しています。作成されるときに活用してください。(各校で作成する。)

くようにする。
・プレゼンテーションの画面に注目する。

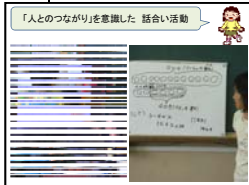
14



◆それでは, 次は実践事例についていくつか紹介したいと思います。

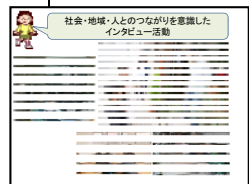
これは, 2年生算数科の実践です。この実践では, ペアやクラスでの話し合い活動を多く取り入れて実践しています。ただ単に話し合い活動を取り入れれば, 人間関係形成能力が育成されるということにはなりません。発表者に相手意識をもたせることや, 相手の発言を自分の考えに取り入れるようにするといった, 双方向のつながりを意識させることが重要です。

15



◆クラスでの話し合い活動を行う際には, このように, ホワイトボードや大型テレビを活用して, わかりやすい説明を意識させることで内容が深まると思えます。大型テレビの横に, SD カードの入れ口がありますので, それを活用すると, すぐに画像がテレビに映し出されます。

16



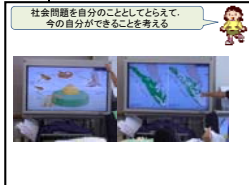
◆これは, 4年生国語科の実践です。この実践では, 地域に出てインタビュー活動に取り組んでいます。インタビュー活動は, 言語能力を育てることの他に, 相手への礼儀, 言葉遣いについて考える機会となったり, 地域の思いにふれる体験を積むことができたりと, キャリア発達をうながす上でも大変有効な活動といえます。

17



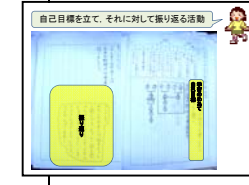
◆この写真は, 成果物をクラスで交流する際に, 校長先生を教室にお招きして発表会を開いたときのものです。子どもたちに「誰に対して発表するのか」という相手意識を明確にもたせることで, 活動にほどよい緊張感が生まれ, 充実した取組が可能となります。他学年に対して, 地域の人に対して, 保護者に対してなど, 様々な対象者を設定することで, よりよい発表会となるように工夫してみましょう。

18



◆次に, 6年生理科の実践を紹介します。この実践では, 環境問題を自分に大きく関わっている問題としてとらえることで, 当事者意識をもちながら, 「今の自分にできること」というテーマのレポートを書いています。このように, 教科等の学習で学んだことを受けて, 自分の生き方につなげるための取組を設定することは, 子どもたちのキャリアプランニング能力の育成に深く関わってきます。ここに紹介した取組は, 学年, 教科等を問わず実践が可能です。是非, 多くの教科等に取り入れて実践し, 4つの力を育成していきましょう。また, 各学年で実践したことは推進部会のメンバーに伝えて下さい。吸い上げた実践を校内で共有することで, 生き方探究教育の推進がどんどん進んでいくことと思えます。

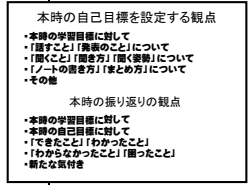
19



◆最後に, 振り返り活動について紹介します。配布物「教科等における生き方探究教育の実践」の9, 10, 11 ページを御覧ください。

自己目標を立て, それに対して振り返る活動というのは, 子どもたちの「自己理解・自己管理能力」や「キャリアプランニング能力」を育てるためだけでなく, 子どもたちの学習意欲の高まりや学習の内容理解の深まりを支援する上でも有効です。

20



◆今年度, 全学級で取り組みたいと思っています。年間指導計画で重点単元を決定したと思いますので, 少なくとも重点単元では実施するようにしてください。実施の方法や観点については, この画面の言葉を参照しながら, 各学年で

※めあての観点, 振り返りの観点を提示する。

| | | | |
|----|--|---|--|
| 21 | <p>その他の実践例</p> | <p>話し合っただけだとは思いますが。もちろん、他の教科等でも振り返り活動をどんどん取り入れて、その成果を共有しましょう。はじめはめあての設定や振り返りに時間がかかるかもしれませんが、ですが、回数を重ねるごとに時間も短縮され、スムーズな振り返りが出来るようになってきます。</p> <p>振り返りの経験を積むことで、子どもたちの自己理解能力がどんどん高まります。また、振り返りの記述は、子どもたちのキャリア発達をたどる足跡にもなり、評価としても活用できます。できるだけ多くの授業で実践してもらいたいと思います。</p> <p>◆次に、本校で実践したいと考えている具体案の事例を紹介したいと思います。まず、お手元の資料の・・・を御覧ください。これは・・・</p> <p>この後、資料②「生き方探究教育ブックレット」資料⑦「生き方探究教育実践事例編」などの中から、校内で実施可能と思われる内容の実践例を紹介しましょう。具体的に示し実践につなげることが重要です。</p> <p>また、今までの校内での取組を、生き方探究教育の視点でとらえ直し、意味付けて紹介することも大切です。</p> | |
| 22 | <p>第二部の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> 重点単元の指導計画案の立案 目標設定と振り返りの観点と方法について | <p>◆それでは、第二部に移りたいと思います。第二部では、各学年に分かれて話し合いをしていただきます。話し合いの内容は次の2点です。</p> <p>一つめは、重点単元の指導計画案を考えてもらいたいと思います。</p> <p>前回作成した年間指導計画を御覧になりながら、重点単元として取り上げている単元について、どのような学習活動・授業展開の工夫を取り入れることができるか検討してください。大まかな計画で結構です。</p> <p>二つめは、振り返り活動の観点と方法について話し合ってください。</p> <p>どの単元で取り入れて実践するか。自己目標を立てるとき、振り返るときの観点はどうするかというようなことを決定してください。</p> <p>観点については、暫定的に決定してもらって、子どもたちの実態に合わせて変更して下さって構いません。</p> <p>話し合う際の参考に、各学年の指導計画（京都市スタンダード）と教科書も準備しております。1年生は～教室で、2年生は～教室で、3年生は・・・（以下、話し合いの場を知らせる。） それでは、よろしくお願いします。</p> | <p>※「指導計画」「教科書」は、各学年で持参することも考えられる。</p> |

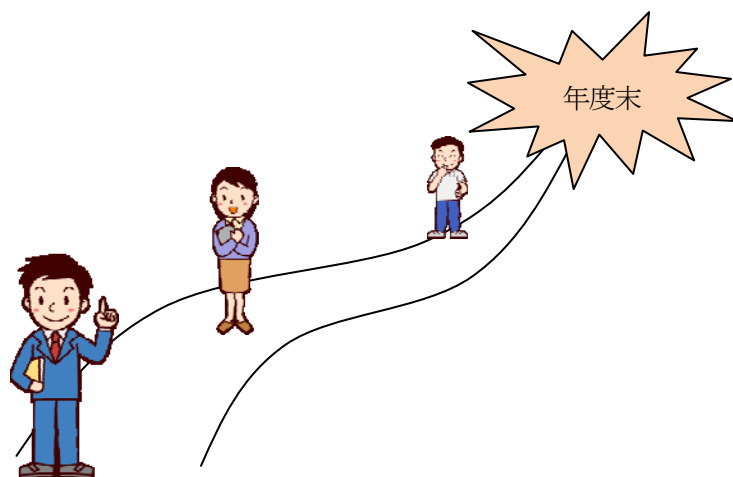
<その後の動き>

各学年で、指導計画案、振り返り活動の観点と方法、校内での取組について話し合います。話し合いが終わった後、決定事項を推進部で取りまとめて解散とします。（必要な時間 60 分程度）

★決定事項の集約について

各学年（もしくは低・中・高）での話し合いで決定したことは、推進部で集約する必要があります。そのために、決定事項を記載する様式を配布することが必要です。

様式については、学校の取組によって様々ですので、ここには例示していません。推進部で話し合っただけで考えましょう。



この研修で大切なことは、先生たちに取組の見通しをもってもらうことです。年度末に向けて、各教室において、どの時期に、どのような取組を行い、どのような子どもたちの姿をめざすのか。その具体的な計画を立ててもらうための理論研修であると考えてください。

そのためには、生き方探究教育主任として、また、推進部として、どのように学校の取組を進めていこうと考えているか、先のビジョンをもってそれを打ち出していくことが大切です。

実践研修
生き方探究教育の実践

(1)教科等における実践に向けて

理論研修Ⅰ，理論研修Ⅱでは，生き方探究教育の概要と，実践授業の進め方，学習モデルの作り方，実践事例などを伝達しました。

実践研修では，公開授業を伴った実践研修をどのように進めていくのかということについて紹介します。

理論研修で作成した年間指導計画や推進部で作成した実践授業の計画案を基に，授業を見る視点や，公開授業後の研修会（事後研）をどのように進めるのかということについて例示します。

実践研修を実施するまでの動き

| 時期 | 生き方探究教育の推進の流れ | 参照ページ |
|--------|-----------------------------|-------|
| 理論研修の後 | ★実践授業を行う意義 ★学習モデルの作成について | このページ |

実践研修の実施

★実践授業を行う意義

実践授業を行う意義として，以下の2点があると思います。

- ①生き方探究教育の取組の具現化
- ②教員の生き方探究教育に対する共通理解の促進

実践授業を実施したり見合ったりすることで，①②が図れます。できるだけ多くの実践を交流することで，校内の推進を図りましょう。授業を見る視点をあらかじめ設定し，授業後の話し合いを通して，推進部会の考えている生き方探究教育の全体計画が具現化されていくようにすることが大切です。

また，授業後の実践研修会では，授業についてだけでなく，その学級・学年の日々の取組や児童の変容なども取り上げて交流する時間を設定することで，校内におけるこの教育の共通理解が深まります。

★学習モデルの作成について

指導計画案，学習指導案の様式については，推進部会で共通理解を図り，各校における様式を決定しましょう（p. 14, 15 を参照のこと）。また，評価についての考え方，評価方法については，23 ページを参照しながら伝達してください。指導案検討会を適宜行うとよいと思います。検討会に参加するメンバーは，各学年の指導者プラス推進部会のメンバーや低・中・高部会，研究部などで行うなど，各校の実態に合わせて決定してください。

大切なことは，検討会の内容を全ての先生たちに伝達し，共通理解を得ることです。その際，その授業のポイントや育てたい力を明確に示すことで，推進部の取組や方向性をはっきりと打ち出すことができます。また，実践授業に向けて，いつまでに学習モデルを作成するのかということや，作成のための話し合いを，いつごろ，何回程度行うのか，早目に計画を立てて先生たちに示せるとよいですね。

(2)実践研修のもち方

実践研修を行うに当たって

- ・「学習モデル」は実施日の前日には全教職員に配布する。
- ・「学習モデル」には、学年・学級の児童の実態や意識、取組の成果などを示す。
- ・「授業を見る生き方探究教育の視点（授業のポイント）」を設定する。
- ・印刷物の準備、事後研修会の司会、記録、指導助言の依頼など、役割分担をはっきりと示す。

実践研修の進め方

- ◆校長先生より
事後研修会を行うに当たって（講師をお招きした場合は、講師紹介を含む）
- ◆生き方探究教育主任より
実践研修の趣旨
事後研修会の進め方
実践した学年の重点目標
「授業を見る生き方探究教育の視点（授業のポイント）」
- ◆学年主任より
学年・学級の児童の様子
学年・学級の取組の概要
- ◆授業者より
授業の目標
授業をしてみて感じていること
学習モデルを考えた際の話合いの様子
- ◆司会者より
「討議をする際の生き方探究教育の視点（討議のポイント）」の確認
（例：児童の様子、児童の成果、取り入れた学習活動・授業展開の工夫のよさや改善点）

※ 討議 ※

（講師をお招きしていた場合）
- ◆指導助言
- ◆校長先生
まとめの言葉

授業の内容についての討議の場となることはもちろん、学校全体の取組への共通理解や再認識の場、また、生き方探究教育推進部会の方向性を形作る場にもなるように、討議のポイントを明確にすることが大切です。また、事後研修会の時間を利用して、今後の予定や共通理解を図る必要のある事案を伝達するようにしましょう。

(3)生き方探究教育の評価について

生き方探究（キャリア）教育の評価について、文部科学省「小学校 キャリア教育の手引」には、以下のように記述されています。

キャリア教育においても、各学校の目標及び育成する能力・態度、教育内容・方法等との関係から、児童にどのような力が身に付いたのかを明確にするために、適切な評価をすることが必要である。また、キャリア教育の評価は、各学校で適切に視点を定め、これに基づいて児童の学習をよりよく改善するために評価するものであることを確認しておかねばならない。（下線は筆者による。）

「各学校で適切に視点を定め」という部分については、生き方探究教育の全体計画（本冊子 p.3 参照）を作成する際に定めた、「生き方探究教育の目標」「重点目標」に当たると考えられます。また、年間指導計画を作成する際に、各学年で「重点目標」に基づいた具体的なめざす子どもの姿を明確にすることで、視点を定めることが可能となります。

生き方探究（キャリア）教育で育てたい力である「4 つの力」というのは、短期間に身に付くというものではありません。そのため、毎時間の活動や成長を見取るというよりは、長期的なスパンで子どもたちの変容を見取り、評価することが大切だと考えます。

教科で実践する場合は教科目標があるので、まずは教科目標の達成をめざすことが求められます。その教科目標をよりよく達成するために、生き方探究教育で育てたい「4 つの力」を授業の中で育むという視点で、学習活動や授業展開の工夫を授業に取り入れるようにしましょう。ただ、教科等の目標が、生き方探究教育で育てたい力の育成に関連が深い場合、その時間の学習状況の評価が生き方探究教育の評価になると考えられます。

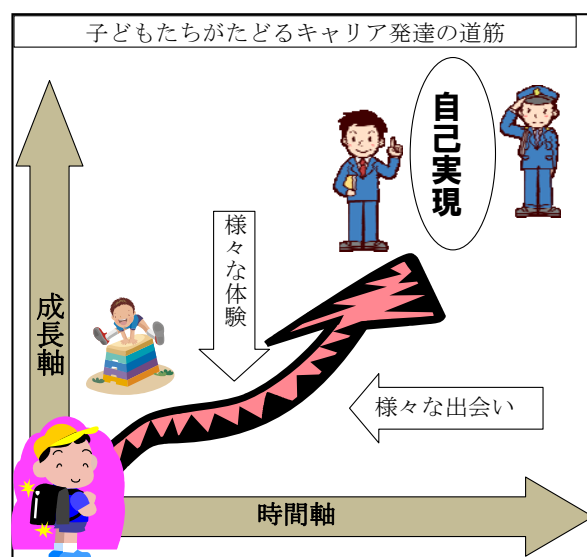
上記の引用の続きには、以下のように示されています。

常に児童の学習状況の評価することにより、学校の指導計画と自らの学習指導の改善に役立てること、さらに、児童が評価を生かして自らの学習の改善に役立てること、という二つを重視したい。

このように、学習状況の評価を、学習指導の改善及び、児童の自己評価に生かすことが重要です。

なお、長期的な視野で子どもたちの変容、成長、課題を評価する際、その評価方法としては、子どもが書いた毎時間の振り返りの記述や、感想文、ポートフォリオ、キャリアノートなどを活用することが考えられます。また、子どもたちの特徴的な行動や記述を書き溜め、画像や映像に記録することで、子どもたちのキャリア発達の足跡を残しておくようにしましょう。それらは、年度末に子どもたち一人一人のキャリア発達の評価を次の学年・校種へ引き継ぐ際の大切な資料となります。

年間指導計画の作成を通して定めた「めざす子どもの姿」の具現化に向け、日々、学習状況の評価し、それを生かして「学習指導の改善」を図ったり、「自己改善」をうながしたりする取組の積み重ねが、子どもたちのキャリア発達を支援することになります。



まとめ
生き方探究教育のさらなる充実のために

(1)年度末のまとめについて

ここでは、1年間の学校の取組を総点検します。各学年で、取組の成果と課題や児童の変容、重点目標に対する評価、来年度の展望などを話し合い、来年度の取組につなげていきます。また、児童一人一人の見取りを来年度へ引き継いでいくことも視野に入れ、キャリアノート、成果物などをまとめていきましょう。

年間を通しての振り返り

次のような手順で、1年間の総括をしましょう。

①学年会の中で

各学年の重点目標に向けて取り組んだ活動について、また、学校全体での取組についての振り返りを行います。それらを通して、児童の変容、成果や課題、来年度に向けての方針などについて、用紙（様式③）にまとめましょう。その際、毎時間の振り返りの記述や、感想、成果物、ポートフォリオ、活動の様子の記録を残しておくことで、成果、課題、方針などを具体的に示すことができるようになります。

②推進部会の中で

学年会の中で集約されたものを推進部会で検討し、学校全体の総括として用紙（様式④）にまとめていきます。各学年の取り組みだけでなく、学校全体での取組についても意見を集約し、来年度の取組の方向性を打ち出すことができるようにしましょう。

③学校全体で

年度末に教員全体での総括を行います。その際、上の①、②で出た意見をまとめたものを提示し、取組の成果や課題、来年度の方向性について共通理解を図りましょう。“反省会”に終わるのではなく、来年度への展望も含め、推進部としての方針を明確に打ち出しましょう。

児童へのアンケート調査を通して

1年間の取組の反省を、児童へのアンケート調査を通して見ることも考えられます。アンケート項目の例として、様式例（p.28～様式⑤、⑥、⑦）を示しました。低・中・高学年それぞれを対象とした設問で考え、裏面は、年度当初用、年度末用の2種類を作成しています。設問の作成については、「生き方探究教育リーフレット」の「【生き方探究教育で育てたい4つの力】に関わるキャリア発達課題（例）」（p.3）を参照し、設問内容を低・中・高学年のキャリア発達課題に合わせています。

各学校で設定した重点目標やキャリア発達課題を意識しながら設問内容を変更し、活用するようにしましょう。また、年度当初と年度末に行うことで、年間を通して児童の意識や態度に変容があったかどうかを見取る手段としても活用できます。設問番号は、「生き方探究教育リーフレット」（p.1）に示された8つの能力を意識して考えました。

①②…人間関係形成能力、③④…社会形成能力、⑤⑥自己理解能力、⑦⑧…自己管理能力
⑨⑩…課題発見能力、⑪⑫…課題解決能力、⑬⑭…役割認識能力、⑮⑯…将来設計能力

このアンケート調査の結果を、次年度の重点目標を考える際に活用できると考えます。

また、教員アンケートを実施し、年間の取組の総括に活用する方法も考えられます。教員アンケートを作成する際には、文部科学省から出ている「小学校キャリア教育の手引<改訂版>」（本冊子 p.7 に Web サイトのアドレスを記載）の p.72, 73 を参照してください。

様式③ 年間の取組の振り返り（学級・学年）

第 学年 組

| | |
|---------------------------------|--|
| 学年の重点目標 | |
| 具体的な取組 | |
| 子どもたちの変容や成果 | |
| 子どもたちの課題 | |
| 来年の子どもたちに向けて 来年度に向けて めざす姿 | |

様式④ 年間の取組の振り返り（生き方探究教育推進部会）

| | |
|------------------------------------|-------------------------------|
| <p>全体計画に対する 振り返り</p> | |
| <p>学校全体の児童の変容</p> | <p>(各学級・学年の振り返りから見えてきたこと)</p> |
| <p>学校全体の児童の課題</p> | <p>(各学級・学年の振り返りから見えてきたこと)</p> |
| <p>学校体制の振り返り・改善点 推進部としての</p> | |
| <p>生き方探究教育推進部の在り方 来年度に向けての</p> | |

様式⑤ 児童用アンケート (低学年用)

| | | | |
|------------|---------|---------|-----------|
| ねんせい 年生 | くみ 組 | ばん 番 | なまえ 名前 |
|------------|---------|---------|-----------|

これはテストではありません。あなたの生活や学習の様子を振り返って、当てはまる番号に○を付けてください。
 4：そう思う（いつもしている） 3：どちらかといえば、そう思う（ときどきしている）
 2：どちらかといえば、そう思わない（あまりしていない） 1：そう思わない（ほとんどしていない）

| | | |
|---|---|---------|
| ① | あいさつや返事をしていますか。 | 4 3 2 1 |
| ② | いろいろな人の話を聞いたり、自分の考えていることや思っていることを周りの人に話したりしていますか。 | 4 3 2 1 |
| ③ | こまっている人を見たら、声をかけていますか。 | 4 3 2 1 |
| ④ | みんなと行動するとき、力を合わせようとしていますか。 | 4 3 2 1 |
| ⑤ | 自分のしたことや言ったことなどをふりかえって、日記に書いたり、だれかに話したりすることがとくいだと思えますか。 | 4 3 2 1 |
| ⑥ | 自分の好きなこと、苦手なことが何か知っていますか。 | 4 3 2 1 |
| ⑦ | 学校のルールを守っていますか。 | 4 3 2 1 |
| ⑧ | 苦手なことにチャレンジして進んで取り組もうとしていますか。 | 4 3 2 1 |
| ⑨ | 勉強することは大切だと思いますか。 | 4 3 2 1 |
| ⑩ | 「勉強しなさい」と言われる前に、自分から進んで勉強していますか。 | 4 3 2 1 |
| ⑪ | 自分の力で、問題のとき方を考えたり調べたりしていますか。 | 4 3 2 1 |
| ⑫ | わからない問題でも、人に聞いて取り組んでいますか。 | 4 3 2 1 |
| ⑬ | そうじゃかかり（とうばん）の仕事をきちんとしていますか。 | 4 3 2 1 |
| ⑭ | 次の日の学校のじゅんびを、自分でしていますか。 | 4 3 2 1 |
| ⑮ | 目標を立てて、それに向けてがんばろうとしていますか。 | 4 3 2 1 |
| ⑯ | 「こんな人になりたい」という思いをもって毎日を過ごしていますか。 | 4 3 2 1 |

ウラにつづく

様式⑥ 児童用アンケート (中学年用)

年生 組 番 名前

これはテストではありません。あなたの生活や学習の様子を振り返って、当てはまる番号に○を付けてください。
 4：そう思う (いつもしている) 3：どちらかといえば、そう思う (ときどきしている)
 2：どちらかといえば、そう思わない (あまりしていない) 1：そう思わない (ほとんどしていない)

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ① | 初めて会った人やあまり話をしたことがない人に対しても、あいさつをしたり自分の思いや考えをきちんと伝えたりしていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ② | 何かを決めたり問題を解決したりするときに、回りの人 (クラスやグループの人) とよく話し合っていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ③ | 学校全体の人の気持ちを考えて行動していますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ④ | 回りの人と協力しながら行動していますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑤ | 自分の行動や話したことなどをふり返って、感想や日記に書いたり、だれかに話したりすることが得意だと思いませんか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑥ | 授業で学んだこと、新しく知ったこと、わからなかったことを、話したり書いたりしていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑦ | 気分がのらないときでも、しなくてはいけないことや自分の仕事はきちんと最後までしていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑧ | よいこと悪いことを自分で考えて行動していますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑨ | 学習していることは、生活や社会の中で役立つと思いませんか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑩ | 様々な問題に対して、自分で考えたり自分なりの意見をもったりしようとしていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑪ | 新しいことを始めたり新しい課題を解決したりするときに、今までに学習したことを使おうとしていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑫ | 少しわからない問題でも、自分の力で解決しようとなれば強く取り組んでいますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑬ | クラスのため、学校のために自分がしなくてはいけないことを理解して行動していますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑭ | 先のことを考えて、計画的に今しなくてはいけないことをしていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑮ | 目標を立てて、それに向けてがんばろうとしていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑯ | 「こんな人になりたい」「こういう風に生きていきたい」という思いをもって毎日を過ごしていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

ウラに続く

様式⑦ 児童用アンケート（高学年用）

| | | | |
|---|---|---|----|
| □ | □ | □ | 名前 |
|---|---|---|----|

これはテストではありません。あなたの生活や学習の様子を振り返って、当てはまる番号に○を付けてください。
 4：そう思う（いつもしている） 3：どちらかといえば、そう思う（ときどきしている）
 2：どちらかといえば、そう思わない（あまりしていない） 1：そう思わない（ほとんどしていない）

| | | | | | |
|---|--|---|---|---|---|
| ① | 初めて会った人やあまり話をしたことがない人、地域の大人に対しても、あいさつしたり自分の思いや考えをきちんと伝えたりしていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ② | 何かを決めたり問題を解決したりするときに、いろいろな人の意見を聞いたり、自分の思いや考えを伝えたりして、話し合っていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ③ | クラス、学校、地域、社会の人の気持ちを考えて行動や発言をしていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ④ | 他クラス・他学年の人とも協力して行動していますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑤ | 自分の行動や発言などを振り返って反省し、次はどうしたいか、がんばりたいことは何かということを考えていると思いますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑥ | 自分のよい面、悪い面を理解し、よりよい自分になろうと努力していますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑦ | 気分がのらないときでも、しなくてはいけないことや自分の仕事はきちんと最後までしていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑧ | 自分の感情や言動をコントロールして、学校や社会のルールやマナーを守っていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑨ | 学習したことを、これからの生活や社会の中で役立つと思いますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑩ | 様々な問題（学校や社会の問題を含む）に対して、自分で考えたり自分なりの意見をもったりしようとしていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑪ | 新しいことを始めたり新しい課題を解決したりするときに、今までに学習したことを活用していますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑫ | 少しわからない問題でも、自分の力で解決しようとねばり強く取り組み、人に聞いたり自分で調べたりしていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑬ | クラスのため、学校のため、地域社会のために自分がしなくてはいけないことを理解して行動していますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑭ | 先のことを考えて、計画的に今しなくてはいけないことをしていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑮ | 目標を立てて、それに向けてがんばろうとしたりできたかどうかを振り返ったりしていますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑯ | 「こんな人になりたい」「こういう風に生きていきたい」「こういう職業に就きたい」という思いをもっていると思いますか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

ウラに続く

めん
(ウラ面)

ねんどうしよ
【年度当初】

おもてめん しつもん なか
表面の質問①～⑯の中で、あなたが特に「苦手だ」「できていない(していない)」「これからで
きるようになりたい(していきたい)」と考える質問の番号と、選んだ理由も書きましょう。

| ばんごう 番号 | りゆう 理由 |
|------------|-----------|
| | |

がっきゅうもくひょう か
学級目標を書きましょう

じぶん ねんかん もくひょう か
自分の1年間の目標を書きましょう

ねんどまつ
【年度末に書きましょう】

おもてめん しつもん なか
表面の質問①～⑯の中で、あなたが特に「できるようになった(するようになった)」「そう思
うようになった」と考える質問の番号と、そう考える理由も書きましょう。

| ばんごう 番号 | りゆう 理由 |
|------------|-----------|
| | |

おわりに

生き方探究（キャリア）教育とは「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達をうながす教育」です。この定義に示されているように、われわれ教員は、児童のキャリア発達をうながすという視点から、今までの教育活動を見直し、系統付け、体系的・横断的に再構築していくことが求められています。生き方探究教育主任のみなさんが、様々な学校での取組、各校種、学校と地域社会、他学級、他学年をつなげるパイプ役となることが大切です。

最後に主任として、学校体制の推進が図れたかどうかの振り返りをし、来年度の取組につなげましょう。

（資料②「生き方探究教育ブックレット」（p. 1）を参照して作成しました。）

| できていれば チェック | チェックリスト |
|--------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> | 「生き方探究教育の全体計画」を立てた。 |
| <input type="checkbox"/> | 生き方探究教育推進にかかわる校内組織を設置した。 |
| <input type="checkbox"/> | 教職員全体で、生き方探究教育についての共通理解を図った。 |
| <input type="checkbox"/> | 各学年で「年間指導計画」を作成した。 |
| <input type="checkbox"/> | 生き方探究教育で、様々な行事や教育活動の取組を横断的につなげることができた。 |
| <input type="checkbox"/> | 生き方探究教育で、様々な教科等の取組を横断的・系統的につなげることができた。 |
| <input type="checkbox"/> | 体験的な学習（生き方探究館が主催する学習プログラムなどを含む）を計画的に取り入れて実践した。 |
| <input type="checkbox"/> | 地域の人をゲストティーチャーとして学校にお招きしたり、教育活動の支援のために協力を仰いだりするなど、地域の教育力を生かすことができた。 |
| <input type="checkbox"/> | 他校種との連携を、生き方探究教育の視点で深めることができた。 |
| <input type="checkbox"/> | 「キャリアノート」やポートフォリオ等で見取った児童のキャリア発達の足跡（評価）を、来年度に引き継ぐ準備ができている。 |
| <input type="checkbox"/> | 生き方探究教育の学校全体における評価（成果と課題）を、次年度に生かす準備ができている。 |